

# 校長室だより

12月号

杉並区立向陽中学校

平成29年12月25日発行

校長 菅野武彦

## 「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】 継続

## 「建設的な和～みんなの向陽中学校～」

◇ 「平成29年度 学校経営計画・重点目標と方策」等の自己評価の集計結果をお知らせします ～教員による4段階評価による肯定率・平均点～

※ 4段階評価【4：よく当てはまる 3：当てはまる 2：今一步 1：当てはまらない】

※ 肯定率：全体に占める4・3の割合 平均点：その段階を点数化して算出

| 項 目   | 肯定率・平均点  |
|---|--|
| <b>(1)「生徒を能動的かつ対話的に学ばせることにより『自立した学習者』に育てる。また、学力向上に欠かせない学習習慣の定着を図る」(よく考える人)</b><br>①生徒の自己評価「私は自分で課題を見つけ、進んで勉強するようになった」の肯定率を70.0%以上にする。<br>②年間を通して、生徒が「能動的かつ対話的に学ぶことができる」ようにするために、これまでの授業を改善した。その際、生徒の「やる気スイッチ」を押したり「好奇心」を刺激したりする“しかけ”と“挑戦→失敗→修正”のサイクルを意識した授業づくりを試み、生徒の能力を引き出した。<br>③教育課題研究「主体的・対話的で深い学びを通じた学力の向上」に取り組む年間7回の授業研究会には、学校全体としての参画意識を高め、グループや全体会での検討・討議に積極的に取り組み授業改善に生かすとともに、新学習指導要領の先行の取組として発表可能な水準を目指した。(全体)<br>④年間3回実施の小中合同研修会において、各教科部会で「主体的・対話的な学び」の検討を行い、小中学校で教科指導を共有するとともに自己の授業の改善に生かした。<br>⑤全教科でデジタル教科書等のICTを活用した授業を実践した。また、ICTを活用した授業公開を年3回実施した。<br>⑥国語の「漢字チャレンジ」、数学の「ドリル学習」、英語の「スプリングコンテスト」を実施した。(基礎学力の定着)(3教科のみ)<br>⑦7月に生徒による授業アンケートを実施した。生徒は自己の学習状況を振り返り、教員は生徒の声(特に能動的・対話的な学びはどうか)を取り入れた授業改善プランを作成し、2学期以降の学習活動に生かした。※継続(学習姿勢の改善、授業改善)<br>⑧5日間の夏季パワーアップ教室、土曜日・日曜日12日間のKOYOスタディ、地域主催の「café 勉」との連携、学生ボランティアを活用した授業等を行った。(基礎学力等の定着)(全体)<br>⑨5教科の家庭学習の定着を図った。4月に「家庭学習の手引き」を配付し支援した。年間を通して活用させ、家庭学習タイム毎日1時間の生徒の肯定率を高めた。(学習習慣の定着)(5教科のみ) | <b>77.5%</b><br><br>① <b>73.6%</b><br>(生徒の肯定率)<br>②70.6% ・ 3.0<br><br>③83.3% ・ 3.1<br><br>④72.2% ・ 2.9<br><br>⑤77.8% ・ 3.3<br><br>⑥80.0% ・ 3.5<br><br>⑦93.8% ・ 3.3<br><br>⑧77.8% ・ 3.3<br><br>⑨64.3% ・ 2.8 |

|   |   |
|---|---|
| <p><b>(2)「自分を大切にできる心と他人を大切にできる心を育て、『思いやりと感謝』を実践できるようにする」※継続2年目(思いやりのある人)</b></p> <p>⑩生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝したりするようになってきている」の肯定率を85.0%以上にする。</p> <p>⑪生徒会の「いじめ0%5か条」の取組を生かし、生徒が自ら声に出してあいさつができるようにする。生徒の肯定率を85.0%以上にする。</p> <p>⑫全校体制で教室内での生徒同士の「共に鍛える」を実践させ、生徒一人一人が自分ができることは何かを考え、集団の中で自分なりに貢献していこうという気持ちを育てた。そして、これを土台に生徒が共に助け合いながら学ぶ授業を実践した。</p> <p>⑬学級活動において、一人一人の生徒が係や委員、班活動などの自己の役割を果たすとともに、互いに助け合って活動できるよう指導した。(自己有用感、助け合い)</p> <p>⑭オリンピック・パラリンピック教育を踏まえ、生徒に「ボランティアマインド」を身に付けさせた。そのために、全校生徒が「地域清掃」を行い、学校で紹介する地域等でのボランティア活動に参加した。また、生徒一人1回、自らボランティア活動に参加するよう支援した。(自己有用感、社会貢献)</p> <p>⑮生活指導基本方針の「指導の重点」の1つ「いじめのない学校をつくる」の具現化を図った。そのために、①「いじめ0%5か条」を全校生徒が共有する活動を行った。②6月・11月・3月のふれあい月間、9月の教育相談週間を活用し、生徒の実態を把握した。③毎週開催のいじめ防止校内委員会(企画委員会)で情報共有や対応策の検討等を行った。④保護者と「本校いじめ対応基本方針」を共有した。学校生活アンケート(いじめ・悩み相談)を毎学期(6月・11月・2月)行い、生徒間のいじめや悩み等を把握した。</p> | <p><b>85.6%</b></p> <p>⑩<b>86.9%</b><br/>(生徒の肯定率)</p> <p>⑪<b>88.7%</b><br/>(生徒の肯定率)</p> <p>⑫83.3% ・3.2</p> <p>⑬94.1% ・3.5</p> <p>⑭70.6% ・2.7</p> <p>⑮94.4% ・3.4</p> |
| <p><b>(3)『自立的な活動ができる生徒及び集団』に育てる。そのために、自らの課題に向き合わせ、自力で解決しようとする過程を大事にする(たくましい人)</b></p> <p>⑯生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」の肯定率を85.0%以上にする。</p> <p>⑰各学期末に生徒自身が取組状況を振り返る「自己評価表」を活用し、生徒の頑張りを共有するとともに、生徒が課題に向き合い前向きに取り組むよう支援した。</p> <p>⑱年5回の定期考査に自ら計画を立て取り組めるようにした。第1学年では学習計画表を活用した取組を支援した。第2・3学年では生徒が自己学習に取り組めるよう生徒の実態に応じた支援を行った。(自立した学習者の育成、依存からの脱却へ)</p> <p>⑲運動会や向陽祭、学年の宿泊行事、そして部活動の指導を通して、様々な課題を自力解決できる全校・学年・そして部活動集団に育て、生徒が「自立的な活動ができる集団」を実感できるようにした。(自浄作用、集団力)</p> <p>⑳昨年度の生徒会・委員会活動の成果を踏まえ、「自立的な活動ができる生徒及び集団」に進化できるよう支援した。(意識の高揚、成果の共有)</p>   | <p><b>85.6%</b></p> <p>⑯<b>81.6%</b><br/>(生徒の肯定率)</p> <p>⑰94.1% ・3.1</p> <p>⑱70.6% ・3.1</p> <p>⑲88.9% ・3.6</p> <p>⑳88.9% ・3.5</p>                                   |
| <p><b>(4)「自らの行動を律し、“なりたい自分”に近づける力を身に付ける。そのために、“がんばれ！自分！”を合言葉に『自育力』を育てる」※3か年計画</b></p> <p>㉑生徒が下記の「自育力を育てる習慣づくり14か条」の中で身に付いていない習慣づくりを自分で3つ取り上げ、1年間でその習慣づくりが身に付くよう支援した。</p> <p>※次の頁に学年教員による学年生徒の「14か条」の4段階評価(A:よく当てはまる B:当てはまる C:今一歩 D:当てはまらない)の結果を肯定率で表示</p>  | <p><b>88.9%</b></p> <p>㉑88.9% ・3.1</p>  |





|   |               |
|---|---------------|
| 12月に中学1年生による「母校訪問」を行った。さらに、3月に生徒会プログラム「ようこそ6年生」を行った。(中学校を身近に感じてもらう、中学校への期待が膨らむ)(全体)   |               |
| ㉓7月開催の「すぎなみ小・中学生未来サミット」での発表に向けて、1学期に生徒会が小学校を訪問し、「いじめ0%5か条」やあいさつ運動等の取組について説明し、小学校での取組を促し、小中学校の連携・交流を深めた。(全体)   | ㉓94.4% ・3.3   |
| <b>(7) 今年度のキーワードは「建設的な和 ～みんなの向陽中学校～」でした。</b>  | <b>75.0%</b>  |
| ㉔私は『建設的な和～みんなの向陽中学校～』を意識した言動を心がけ、実践できた。   | ㉔88.9% ・3.1   |
| ㉕学校全体として、『建設的な和～みんなの向陽中学校～』を意識した言動が取られていた。(全体)  | ㉕61.1% ・2.6   |
| <b>(8) 第2学期に向けて(28.8.29付)</b>   | <b>83.6%</b>  |
| ㉖第2学期は「たくましい向陽を創ろう！」です → その先の『自立』へ 第1学期の「明るい向陽を創ろう！」を受けて、第2学期は生徒に「たくましさ」を要求したいと思います。様々な場面で“自力で困難を乗り越える”ことを言い続けてください。ただ、生徒の状況に応じて適切なアドバイスをお願いします。生徒一人一人の「自育力」とともに、目指すは『自立的に活動できる生徒』です。 | ㉖88.9%        |
| ○生徒に「自分に向き合うこと」・「まずは行動してみることを」言い続けた。  | ○88.9% ・3.3   |
| ○生徒に「自分で考えなさい!」「自分でやる!」と言い続け、つかい棒を外していった。   | ○83.3% ・3.3   |
| ○運動会同様、向陽祭の取組を通して、生徒一人一人、学級、学年に自信を持たせた。生徒一人一人の「みんなの向陽中学校」を創る姿を見てもらった。(全体)   | ○94.4% ・3.7   |
| <b>㉗学習指導上のお願い</b>   | <b>㉗78.2%</b> |
| ○授業アンケートの集計から作成した「授業改善プラン」を実践した。  | ○82.4% ・3.3   |
| ○生徒に文字を丁寧に書く習慣を身に付けさせた。   | ○82.4% ・3.2   |
| ○5教科での家庭学習の指導をした。(家庭学習の手引きの再活用)(5教科のみ)  | ○70.0% ・3.0   |

※ 上記項目の①～④は平成29年度学校経営計画の「重点目標と方策」に示した内容です。⑤と⑥は「第2学期に向けて」として教職員に示した内容です。

※ この集計結果及び「学校評価アンケート(生徒・保護者・地域対象)結果」(次号の掲載予定)を基に、今年度の学校経営計画の達成状況について分析・考察を行い、1月下旬以降に開催予定の「学校関係者評価委員会」において検討をお願いします。その検討結果を受け、次年度の学校経営及び学校運営の改善を図ってまいります。

＝平成29年(2017年・酉年)を終えるにあたり 保護者並びに地域の皆様へ＝

本日、無事第2学期を終えることができました。今年度は来年3月まで続きますが、今年の締めくくりにあたり、保護者並びに地域の皆様にご挨拶申し上げます。

開校70周年を迎えた向陽中学校の生徒たちは、この記念すべき今年1年をより充実したものにしようと、学習活動は勿論のこと、委員会・係活動や部活動、そして学校行事に宿泊行事に一生懸命取り組んできました。私が「向陽中学校の生徒を見て下さい!」と胸を張って言える姿を見せてくれたのです。これも生徒たちをしっかりと支え、見守ってくださっている保護者並びに地域の皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。ありがとうございました。よいお年をお迎えください。菅野武彦